
轟け！新たな英雄歌

麻生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

轟け！新たな英雄歌

【Nコード】

N3894E

【作者名】

麻生

【あらすじ】

私は彼女に憧れて冒険者になった。必ず、あたしの英雄歌を轟かせてみせる！一人の少女が憧れたのは『へっぽこ』の名を持つ英雄だった。

1 回目 『冒険者、青空小鳩亭に立つ!』 (前書き)

この話は新ソードワールドRPGプレイ集の後の話になります。『へつぽこーズ』の面々も出てきますが、あまり表に出さないようにしたいです。あと、『この描写、違うくねえ?』とか思ったら教えて頂ければ直ぐに修正したいと思います。尚、キャラクターデータは適当です。

1回目『冒険者、青空小鳩亭に立つ!』

私の名前はイルミナ。イルミナ・ネイス。

16になる今年、私はある計画を実行に移す事にした。

あの、オーファンを救った英雄を目指すのだ!

オーファンの英雄と言えば、かの建国王『リジャール王』を皆、口にするが私は違う。

泥臭く、華麗からは限りなく遠い。

しかし、その知恵と勇氣、そして正義を信じる心を私は決して忘れない。

青い小鳩亭。

オーファンの英雄『へっばコース』を産んだ老舗の『冒険者の宿』

私の新しい家となる………予定、なんだが

「ゴメンね。まだ建て終わってなくてねえ」

宿の女将シャナは笑いながら言うが私としてはここを拠点にしたいのだが。宿は骨組みと異常と思われる位の補強材を見せている。

「宿が出来るまでまだ時間が掛かる。どうだ、其れまでに一つ依頼をこなさないか?」

話掛けて来たのはこの宿の主人ガーディ。元冒険者でシャナと二人三脚で宿を切り盛りしていた。

「あんたみたいにイリーナ達にあやかりたいって初心者は沢山いるんだ。誘ってみたらどうだい？依頼もコボルト退治と簡単なヤツだ」

「コボルト？」聞いた事があるんだが、何故か思い出せない。

「コボルトってのは……」

ガーディが説明しようとするのを、私の後ろから遮った

「コボルトは犬みたいな頭と小人みたいなモンスターで、私達みたいなペーパーの冒険者にぴったりのモンスターよ」

振り返ると金髪にローブに、杖を持った年の頃15、6の女の子が立っていた。

「はじめまして。貴女も仲間を捜しているの？見た所、戦士みたいだけど」

「ええ、ここの主人から依頼を受けたいけど仲間がいないから」

私は軽い皮鎧にロングソード。典型的な戦士のスタイルだ。

「じゃあ、私と組まない？」

「えっ？」

彼女の姿を見ると軽いローブと杖。おそらく『賢者の学院』の生徒

だろう。

ある程度授業過程が進むと希望者はフィールドワークに出る事が出来るらしいとの事を聞いた事がある。

フィールドワークに出た者はその技術を生かし冒険者になる事が多い事も。

(見た感じ悪そうな印象じゃないし)

「良いですよ。私はイルミナ。イルミナ・ネイスよ。戦士と狩人の知識を持つてるわ。知り合いのお爺さんから色々教えて貰った事もあるわ」

「ニアよ。ニア・アルトシア。賢者の学院で学んでいるの。コボルト如き、私の魔法で一撃よ」

ニアが魔法を撃つ仕草をする

「そうかの？」

ニアの言葉に返す言葉があった。

見るとドワーフと子供が立っていた。

何故かドワーフの方はかなり老成している感じがするが、気のせいだろうか？

「あの……どちら様で」

「失礼。僕はガルガド。見ての通り、戦神・マイリーに仕えるもの。こやつは、イラと申す。僕の自慢の弟子、と言った所じゃ」

イラと言われた子供は声変わり前のハスキーな声で前に出て、

「はじめまし、イラ・ハゼルと申します。師匠に教えて戴きながら盗賊ね修行を、ふうあ！」

盛大にコケた。

「……………」

「……………」

「……………えへっ」

ブツッ

何かがキレた音がしたのは、気のせいだ。そう思いたい……………けど、イラの後ろでガルガドさんが物凄い形相をしているが、（（みつ、見れない！））

私もニアも此方に向けられて無いのにまるで蛇ガルガドさんに睨まれた蛙（イラさん+私達）だ。

「イ〜ラア〜」

イラさんは硬直しガルガドさんの方に向くと

ビシッ！バシッ！

「お前と、言う奴は、何度、言えば、気が、済むん、だ！」

どこからともなく出した扇子でぶっ叩きまくる。
その柄の部分には

『盗賊魂注入!』

と書かれていた。

しかし、あんまり痛く無いのか『痛いですよ』ある意味たのしそ
うな返事が返ってくる。

((親子みたいだ))

ガルガドさんの説教(馴れ合い?)は陽が傾くまで行われた。

「おばあちゃん。焼き鳥の盛り合わせとエールを追加ね!」

結局、ガルガドさんはイラを連れて行ってしまい話を聞けなかった。

一通り注文したニアは私の方に向き直り

「ねえ、イルミナって何で冒険者になったの?」

「んっ?理由?」

私はエールを飲み干すとおばちゃんにおかわりと簡単なつまみを注
文して

「私が冒険者になったのは、ある人の影響なんだ……」

夜空を見上げ青空冒険者の宿の仮ステージからは珍しいドワーフの吟遊詩人が謡いだしていた

『かくも恐ろしき夜の王。人々の嘆きに現るるは至高神が遣わす猛女とその仲間達。』

バリトンの聞いた歌声をBGMに私は語りだす。彼女の話す。

キャラクターデータ

別に見なくても大丈夫な筈です。

イルミナ・ネイス

(人間、 女、 15歳) 器用度13(+2) 敏捷度14(+2)
知力13(+2) 筋力15(+2) 生命力18(+3) 精神力1
0(+1)

保有技能

ファイター1レンジャー1セージ1

武器ロングソード

盾 スモールシールド

鎧 ハードレザアーマー

本作品の主人公です。

ある冒険者に憧れて冒険者になる

……以上。

他の設定は追々って事で

ニア・アルトシア

(人間、女、15歳) 器用度13(+2) 敏捷度17(+3)

知力19(+3) 筋力10(+1) 生命力11(+1) 精神力2

0(+3)

保有技能

ソーサラー1セージ1

武器ワント

盾

鎧 ソフトレザアーマー

賢者の学院の駆け出し学生。

彼女の師匠に『外の世界を見てきなさい』と優しく言われ冒険者に。

因みに彼女の師匠は『仏』と呼ばれているらしい。最近、分室を燃やされへこんでいた。ある生徒に『スリープクラウド』を覚えさせるのを使命としているとかいないとか。

1回目『冒険者、青空小鳩亭に立つ!』(後書き)

初めてですのでお手柔らかにお願いします。

2回目『語り！出会いの序曲！』

ちよつと前にバンパイアの騒動あつたでしょ。私もその時ファンに避難していたの。

「何で、入れてくれないんだ！」

「だから、これ以上は入れる事は出来ない。外には騎士団と神官戦士団が警備に付いてる！」

門の前に立っている兵士の一人に食つて掛かる人。

旅の疲れか、地面に座り込んでしまう女性。

故郷の村を心配し、空を見上げる老人。

中に入れず、いつ魔物に襲われるか心配する人。

「イルミナ。大丈夫？」

私は母と父と一緒に逃げて来たんだけど、やっぱり外に置き去りにされていたの。

一番外縁で中に入れるのを待っていたの

「うん、平気。お母さんこそ、歩き慣れて無いんだから……」

私は父と一緒に狩りに出たことがあるから、歩き慣れているけど母は普通の人だったから。

「も、魔物だあ！」

私が振り向いた目の前には、目を爛々と紅く光らせ持っていた斧を振り降ろさんとしていた男の人（後で聞いた所『レッサーバンパイア』と言う魔物だったとの事）

「ひっ！」

森でクマに襲われた時より遙かに怖かった。

得体のしれない恐怖と間近に迫った死。

母が覆い被さって護ろうとしてくれたが私は目を瞑る事しか出来なかった。

ガギイ！

次に聞こえて来たのは、肉の切り裂かれる音ではなく、金属同士のぶつかり合った音だった。

目を開けると、金属の塊を付け、巨大な鉄板の様な大剣を持った。茶髪の少女だった。

「ごめんなさい。あなたも、今回の件の被害者なのに……。です。が、今は未来ある若者を守る為に、私は剣を振ります！」

その少女は既に言葉の通じない相手に対し謝る様に話しかけ、大剣

を軽々と扱い斧を弾くと、高々と上げて

「汝は、邪悪なり!!」

ズゴシヤア!

地面にめり込むまで振り降ろし魔物を一刀両断にしてしまった。

彼女は聖印を切り

「あなたの魂がファリス様の元へ召されます事を」

私は忘れない。

自分の正義を信じ振るう剣を

自分のせいで魔物となった人を手に掛ける悔しそうな顔を

それでも残った人を救う為に戦う勇姿を

彼女は私に手を出して

「大丈夫ですか?」

まだ、腰を抜かしてうまく立てない私は手を借りてようやく起き上がる事が出来た。

「ありがとうございます。大丈夫です」

彼女は頷き

「では、私は警備に戻りますので・・・」

そこで、言った言葉はただ、憧れから来るものだったのかもしれない。

それとも、母も守れなかった自分をふがないと感じてしまったのかは知らない

「あの！」

「何ですか？」

彼女は振り向き不思議そうにする

私は意を決して言った

「私に剣を教えてください！」

「え？でも私は警備が・・・」

「お暇な時でも構いません！」

彼女は私を見据え問う

「なぜ、剣を握ろうと思ったのですか？」

「大切な人を守る為！」

「なぜ、振るおうとするのですか？」

「理不尽な悪を許せないから！」

「最後に……その意志を貫き通す覚悟はありますか？」

「有ります！」

「……」

「……ふっ、解りました。今、仲間が王都に戻ってくる途中
ですのでそれまででいいなら」

「ありがとうございます！先生！」

頭を下げるとなぜか彼女は慌てて

「や、止めてください。そんな……」

「でわ、なんと呼べば？」

「私はイリーナ・フォウリーです。イリーナと呼んで下さい」

「え?!イリーナ・フォウリーってこの国を救った英雄じゃない!
あなた、そんな人から教わったの?」

「教わったって言っても、基礎訓練くらいだし・・・」

「それで、どうなったの？」

二ナは先をうながすが

「一週間くらいみっちり教わって『仲間が帰って来たので行かないといけません』って言われてそれっきり会ってないのよねえ」

「なあんだ、詰まんないの」

そこに別の声が割り込んできた。

「少々、よろしいですか。お嬢さん」

声の方を向くと先ほどまで歌っていたドワーフの吟遊詩人がそばにいた。

「先ほどから、面白いお話をされていたので。よろしければ私にもお聞かせ願いませんか？もちろんこの御代は私が払わせて頂きます」

「ホントに！？やったあ。おばちゃん！焼き鳥盛り合わせとエールおかわり〜」

二ナは飛んで喜び追加注文する。

『……………』

私とドワーフさんは見合わせて苦笑し、改めて席に座る

「自己紹介がまだでした。私わたくしバスと申します。以後お見知りおきを」
人の良い笑顔と共にそう言った。

補足

バス へっぼコースの一員にして、オーファンを救い『へっぼコース』と言う名を世に広めた張本人。

ドワーフなのに盗賊にして吟遊詩人と言う凄い人生を歩む人物。

常に逃げ道を確保し、前に出ず例えパーティーが全滅しても自分だけは生き残る様にしているのは吟遊詩人の使命感からか。

2回目『語れ！出会いの序曲！』（後書き）

キャラクター紹介

バス

ドワーフ 男 45歳

趣味 歌舞音楽全般、噂話収集

好きな物 拍手、蜂蜜水、古美術品鑑賞

嫌いな物 自分のタイムマン勝負、辛いもの

保有技能

シーフ5

バード6

プリスト（ヴェーナー）1

セージ1

クラフトマン（弦楽器）5

どこから来て、どこに行くのか。究極の風来坊にしてマイペース吟遊詩人。

ある事件をきっかけにヴェーナーの啓示を聞きシーフからバードに転向。街で歌えばまとまった金額が転がり込む、パーティーの非常時金庫。

口癖は

「ワタクシはシーフではありません。アーティストです」

現在は『ファリスの猛女（イリーナの事）』の英雄曲を紡ぐ事を生きがいとしている（明かせ！へっぽこ大冒険より）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3894e/>

轟け！新たな英雄歌

2010年10月19日02時16分発行